

<特集「連用修飾的複文」>

ポーランド語における連用修飾的複文¹ Clause combining in Polish

森田 耕司
Koji Morita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、特集「連用修飾的複文」(『語学研究所論集』第20号, 2015, 東京外国語大学)に寄与するものである。本稿の目的は、32個のアンケート項目に対するポーランド語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘Clause combining’ (Journal of the Institute of Language Research 20, 2015, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer Polish data for the question of 32 phrases.

キーワード：ポーランド語, 連用修飾的複文
Keywords: Polish, clause combining

『語学研究所論集』第20号の特集「連用修飾的複文」に関する風間(2015)のまえがきに記されているアンケート項目及びその意図や説明に基づき、ポーランド語のデータを提示する。アンケート項目に回答しつつ、必要に応じて、解説も加える。

1. 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。【同時動作】

ポーランド語では、不完了体の動詞から派生する副動詞現在を用いる。副動詞現在は、相対的な時の観念を含んでおり、述語動詞の表す時と同時に進行する動作を表す。副動詞現在の示す動作の主体は文の主語と同一であるのが原則である。

On	zawsze	je	posiłek,	czytając	gazetę.
he-NOM	always-ADV	eat-3SG.IMPF.PRS	meal-SG.ACC	read-IMPF.CVB	newspaper-SG.ACC



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ ポーランド語のデータ作成に際してご協力いただいた本学特任講師カロリナ・レシニェフスカ先生に心よりお礼を申し上げます。

2. (私は) 昨日は 10 時に家に帰って、少しテレビを見て (から)、寝ました。【継起的動作・物語的連鎖】

ポーランド語では、物語的連鎖の場合は、定形の動詞と接続詞で表現することが多い。述語動詞の表す時よりも前に完了した動作を表す場合、完了体の動詞から派生する副動詞過去を用いることも可能であるが、どちらかといえば文語的な形で、口語ではあまり使われない。また、使うとしても、1つだけ使うのが一般的である。

Wczoraj	wróciłem	do	domu	o	godz. 10,		
yesterday	return-1SG.PF.PST	to-PREP	home-SG.GEN	at-PREP	hour-SG.LOC		
obejrzałem	przez	chwilę	telewizję,	a	potem	poszedłem	spać.
watch-1SG.PF.PST	through-PREP	moment-SG.ACC	television-SG.ACC	and	later	go-1SG.PF.PST	sleep-INF

3. (私は) 昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。【継起：理由】

ポーランド語では、定形の動詞と接続詞で表現することが一般的である。副動詞過去では、2つの動作の時間差を示すことは可能であるが、特に理由を示す目的では使用されない。

Wczoraj	przewróciłem	się	na	schodach	i	się	zraniłem.
yesterday	fall down-1SG.PF.PST	REF	on-PREP	stair-PL.LOC	and	REF	hurt-1SG.PF.PST

4. 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。【異主語】

ポーランド語では、主語が同一でない場合、副動詞を用いることはできない。

Dziś	też	ojciec	poszedł	do	pracy,	a	brat	na	uniwersytet.
today	also	father-SG.NOM	go-3SG.PF.PST	to-PREP	work-SG.GEN	and	brother-SG.NOM	to-PREP	university-SG.ACC

5. (あの人は) 今日は帽子をかぶって歩いていた。【付帯状況】

ポーランド語では、例文 5 のような付帯状況は、副動詞などの準動詞を使わず、前置詞によって表現するのが一般的である。

Dziś	chodziła	w	kapeluszu.
today	walk-3SG.IMPF.PRS	in-PREP	hat-SG.LOC

6. (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。【並行動作】

ポーランド語では、例文 6 のような同一の時空間に起きる動作ではない単純な動作の並列は、副動詞を用いることなく、定動詞を接続詞で繋げて表現するのが一般的である。

W	wolne	dni	zawsze	czytam	książki	lub
on-PREP	free-PL.ADJ.ACC	day-PL.ACC	always-ADV	read-1SG.IMPF.PRS	book-PL.ACC	or

oglądam	telewizję.
watch-1SG.IMPF.PRS	television-SG.ACC

7. 時間がないから, 急いで行こう. 【理由・カラ】

ポーランド語では, 前文を接続詞 *więc* 「したがって (ノデ)」で繋ぐケースが多い. 文頭に接続詞 *ponieważ* 「なぜなら (カラ)」が置かれるパターンも少なからず見られる.

Nie	mamy	czasu,	więc	idziemy	szybko.
NEG	have-1PL.IMPF.PRS	time-SG.GEN	so	go-1PL.IMPF.PRS	quickly-ADV

8. 昨日は頭が痛かったので, いつもより早く寝ました. 【理由・ノデ】

Wczoraj	boliła	mnie	głowa,	więc	poszedłem	spać	wcześniej
yesterday	ache-3SG.IMPF.PST	I-ACC	head-SG.ACC	so	go-1SG.PF.PST	sleep-INF	earlier-ADV

niż	zwykle.
than	usual-ADV

9. あの人は本を買いに行った. 【趨向/移動の目的】

ポーランド語では, 移動の目的は, 移動の動詞に一般動詞の不定形 (不定詞) を繋げて表現するのが一般的である.

Ta	osoba	poszła	kupić	książkę.
that-SG.NOM	person-SG.NOM	go-3SG. PF.PST	buy-PF.INF	book-SG.ACC

10. (彼は) 外がよく見えるように窓を開けた. 【目的・意図】

ポーランド語では, 目的を示すために特別な接続法が用いられる.

Otworzył	okno,	aby	mieć	lepszy	widok
open-3SG.PF.PST	window-SG.ACC	to-CONJN	have-IMPF.INF	better-SG.ACC	view-SG.ACC

na	zewnątrz.
for-PREP	outside-SG.ACC

11. ここでは夏になると、よく雨が降ります。【恒常的条件】

ポーランド語では、動詞を用いずに単に「夏には」とするのが自然である。「夏になると」という従属節は現れず、単文になる。

Latem	tu	często	pada	deszcz.
in summer-ADV	here	often-ADV	fall-3SG.IMPF.PRS	rain-SG.NOM

12. 窓を開けると、冷たい風が入って来た。【確定条件・生起】

ポーランド語では、as に相当する形式が用いられる。通常の時間的な継起的表現である。

Jak	otworzyłem	okno,	do	środką	wpadł
as-CONJN	open-1SG.PF.PST	window-SG.ACC	into-PREP	center-SG.GEN	blew-3SG.PF.PST
zimny	wiatr.				
cold-SG.NOM	wind-SG.NOM				

13. 坂を上ると、海が見えた。【確定条件・発見】

Jak	wspiąłem	się	na	górze,	widać	było	morze.
as-CONJN	climb-1SG.PF.PST	REF	to-PREP	top-SG.ACC	see-INF	be-3SG.IMPF.PST	sea-SG.ACC

14. 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。【仮定条件】

ポーランド語における最も典型的な条件文である。

Jeśli	jutro	będzie	padać,	nie	pójdę	tam.
if-COND	tomorrow	be-3SG.IMPF.FUT	fall-INF	NEG	go-1SG.PF.PRES	there

15. もっと早く起きればよかったなあ。【反実仮想】

ポーランド語では「もっと早く起きなかったことを後悔している」のような表現になっている。

Żałuję,	że	nie	obudziłem	się	wcześniej.
regret-1SG.IMPF.PRS	that-CONJN	NEG	awake-1SG.PF.PST	REF	earlier-ADV

16. あんなところへ行かなければよかった。【反実仮想・前件否定】

ポーランド語では「あんなところへ行ったことを後悔している」のような表現になっている。

Żałuję, że pojechałem do takiego miejsca.
regret-1SG.IMPF.PRS that-CONJN go-1SG.PF.PST to-PREP that-SG.GEN place-SG.GEN

17. 1に1を足せば, 2になる。【一般的真理】

ポーランド語では, 条件形式は使わない。一般的真理は, 不完了体動詞の現在形で表現するのが一般的である。

Dodajemy jeden do jednego i otrzymujemy dwa.
add-1PL.IMPF.PRS one-NUM.ACC to one-NUM.GEN and get-1PL.IMPF.PRS two-NUM.ACC

18. 駅に着いたら電話をしてください。【仮定条件+働きかけのモダリティ】

ポーランド語では, 接続詞を使った条件表現が用いられる。

Zadzwoń, jak dotrzesz na stację.
call-2SG.IMP as-CONJN arrive-2SG.PF.PRS to-PREP station-SG.ACC

19. 日曜日になったら, みんなで公園に行きたいなあ。【仮定条件+願望】

ポーランド語では, 仮定法を使った条件文で願望を表現するのが一般的である。

Chciałbym, żebyśmy wszyscy poszli w niedzielę do parku.
want-1SG.HYP that-1PL.CONJN all-3PL.NOM go-3PL.PF.PST on-PREP sunday-SG.ACC to-PREP park-SG.GEN

20. 明日雨が降ったら困るなあ。【心配】

ポーランド語では, 単なる条件文で表現される。

Jeśli jutro będzie padać, będę miał kłopot.
if-COND tomorrow be-3SG.IMPF.FUT rain-INF be-1SG.IMPF.FUT have-3SG.IMPF.PST difficulty-SG.ACC

21. 家に来るなら, 電話をしてから来てください。【時間的前後関係に則していないナラ条件文】

ポーランド語では, 「もし私のところへ来たいのなら, 前もって電話してください」が自然な文となっている。

Jeśli chcesz do mnie przyjść, zadzwoń wcześniej.
if-COND want-2SG.IMPF.PRS to-PREP I-GEN come-PF.INF call-2SG.PF.IMP earlier-ADV

22. (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら, 教えてください。【予想を伴った条件文】

ポーランド語では, when に対応する表現が用いられるタイプの条件文である。

Kiedy	zadzwoń,	daj	mi	znać.
when-CONJN	call-3SG.PF.PST	give-2SG.IMPF.IMP	I-DAT	know-IMPF.INF

23. (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら、教えてください。【予想を伴わない条件文】

ポーランド語では、when に対応する表現を用いることができず、if に対応する表現しか用いられないタイプの条件文である。

Jeśli	zadzwoń,	daj	mi	znać.
if-COND	call-3SG.PF.PST	give-2SG.IMPF.IMP	I-DAT	know-IMPF.INF

24. 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。【相關構文】

ポーランド語では、ことわざとして「誰が働かない、そいつが食べない」のように、疑問詞（／関係詞）を指示詞で受ける構文でこの内容を表現している。他にもことわざとしてではないが、関係代名詞を使って表現することも可能である。

Kto	nie	pracuje,	ten	nie	je.
who	NEG	work-3SG.IMPF.PRS	that-SG.NOM	NEG	eat-3SG.IMPF.PRS

Ci,	którzy	nie	pracują,	nie	powinni	jeść.
those	who	NEG	work-3PL.IMPF.PRS	NEG	should	eat-IMPF.INF

25. もう少しお金があったらなあ。【言いさし・願望】

ポーランド語では、仮定法を使った条件文で願望を表現するのが一般的である。

Chciałbym	mieć	więcej	pieniędzy.
want-1SG.HYP	have-IMPF.PRS	more	money-PL.GEN

26. これも食べたら？【言いさし・提案】

提案もしくは勧誘と言うべきモダリティの意味を持つ表現を文頭に用いている。

Może	to	też	zjesz?
maybe-PTCL	that-SG.ACC	too	eat-2SG.PF.PRS

27. (やりたいなら自分の) 好きなようにやれば？【言いさし・つき放し】

ポーランド語では、命令形を用いるのが一般的である。

Może	rób	co	chcesz?
maybe-PTCL	do-2SG.IMP.F.IMP	what	want-2SG.IMP.F.PRS

28. このコップは落としても割れない. 【仮定的な逆接】

ポーランド語では, 「このコップは落下の場合に割れない.」となっている. 条件形式が用いられることはなく, 累加の形式が用いられる言語である.

Ten	kubek	nie	stłucze	się	w	razie	upadku.
this-SG.NOM	mug-SG.NOM	NEG	break-3SG.PF.PRS	REF	in-PREP	case-SG.LOC	drop-SG.LOC

29. このリンゴは高かったのに, ちっとも甘くない. 【アクチュアルな逆接】

To	jabłko	było	drogie,	ale	wcale
this-SG.NOM	apple-SG.NOM	be-3SG.IMP.F.PST	expensive-SG.NOM	but	at all

nie	jest	słodkie.
NEG	be-3SG.IMP.F.PRS	sweet-SG.NOM

30. 彼の家に行ってみたけれども, 彼はいなかった. 【逆接3】

Poszedłem	do	niego,	ale	go	nie	było.
go-1SG.PF.PST	to-PREP	he-GEN	but	he-GEN	NEG	be-3SG.IMP.F.PST

31. あの人が来るまで, 私はここで待っています. 【時間的期限 (1)】

ポーランド語でも, 接続詞「～まで」を用いて, 同じ要素で表現することが可能である.

Poczekam	tutaj,	aż	ta	osoba	przyjdzie.
wait-1SG.PF.PRS	here	until-CONJN	that-SG.NOM	person-SG.NOM	come-3SG.PF.PRS

32. あの人が来るまでに, 食事を作っておきますよ. 【時間的期限 (2)】

ポーランド語では, 接続詞「～する前に」を用いて, 「あの人が来る前に, 食事を用意しておく」となっている.

Przygotuję	posiłek,	zanim	ta	osoba	przyjdzie.
prepare-1SG.PF.PRS	meal-SG.ACC	before-CONJN	that-SG.NOM	person-SG.NOM	come-3SG.PF.PRS

略語

ACC=対格, ADJ=形容詞, ADV=副詞, COND=条件, CONJN=接続詞, CVB=副動詞, DAT=与格, FUT=未来, GEN=生格, HYP=仮定, IMP=命令, IMPF=不完了体, INF=不定形, LOC=前置格, NEG=否定, NOM=主格, NUM=数辞, 小詞=PTCL, PREP=前置詞, PST=過去, PL=複数, PF=完了体, PRS=現在, REF=再帰代名詞, SG=単数, 1=1 人称, 2=2 人称, 3=3 人称

参考文献

風間伸次郎 (2015) 「特集 (連用修飾的) 複文 まえがき」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 20 号, pp. 15-41.

執筆者連絡先 : morita@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2022 年 12 月 10 日